朝鮮大学校訪問感想文集

日時：　2015 年 5 月 20 日（水）13 時～16 時半
場所：　朝鮮大学校（東京都小平市小川町）
参加者：　東京学芸大学教育学部多文化共修科目 A 受講者 33 名（日本人学生 14 名、留学生 19 名）
引率者：　岡　智之（東京学芸大学留学生センター）
スケジュール：
13 時　朝鮮大学校到着
13 時～14 時半　学内案内、民族教育等のお話
14 時半～16 時半　朝鮮大学生との交流。部活動（朝鮮舞踊）の見学など。
16 時半　現地解散

朝鮮大学校訪問を終えて
担当教員：岡　智之（東京学芸大学留学生センター）

東京学芸大学では、2015 年度より、教育学部共通科目として、多文化共修科目が開設されました。岡が担当する多文化共修科目 A は、異文化理解とコミュニケーションと題して、異文化理解や多文化社会に関するトピック（在日外国人、日本の民族問題、言語教育問題など）を、留学生など多様な文化的背景を持つ学生との議論・交流を通して学ぶものです。そして、単に教室で学ぶだけでなく、実際に体験する課外活動として、今回、在日朝鮮人の問題を考えるために、朝鮮大学校の訪問と交流活動を計画しました。東京学芸大学から自転車で 30 分ほどの近い距離にありながら、その存在も知らない人も多く、なかなか交流するチャンスもない中でこのような活動を体験することは多くの学生にとって有意義なことだったと考えております。

授業では、1～2 回在日コリアンの歴史や民族教育についての学習を行い、朝鮮大学校を訪問するにあたり、質問事項を出してもらいました。最初は、マスコミなどの影響であまりいいイメージを持っていない「北朝鮮」系の学校ということで、学生にとっても、ちょっと近づきにくいイメージがあったのではないかと思います。また、「民族差別」や「ヘイトスピーチ」などなかなか聞きにくい問題もあったようです。今回の訪問で、実際に朝鮮大学の学生たちと話すことによって、多くの学生がマスコミなどによって作られたイメージが変わり、在日コリアンに対する理解がいい意味で深められたことは大変喜ばしいことだと感じました。今回の訪問で終わらせることなく、今後も継続的に朝鮮大学校との交流を続けていきたいと思います。

朝鮮大学校の訪問の感想

朝鮮大学校に訪問して、朝鮮大学校の先生から在日朝鮮人の歴史と現状について教えていただきました。朝鮮大学校の朝鮮自然博物館と朝鮮歴史博物館を参観して、グループを分けて、朝鮮大学校の学生三人と話しました。

実際に、朝鮮大学校は大学水準の教育を行っていますが、日本の文部科学省から大学と

しての認可を受けていないはずです。在日本朝鮮人総聯合会（朝鮮総聯）や朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）当局から支援を受けています。朝鮮自然博物館と朝鮮歴史博物館の中に金日成の写真や絵もあります。朝鮮大学校の全寮制の集団生活は中国の高校と似ているというイメージが強くて、普通の日本大学の雰囲気と違うと感じました。

私は一番言いたいのは、中国に誇りを思っているということです。なぜなら、朝鮮大学校の朝鮮自然博物館と朝鮮歴史博物館を参観した時、当然朝鮮の歴史や文化、自然を体験しました。中国人の私にとって、朝鮮の歴史や文化は昔の中華文化の影響を強く受けていたのを感じました。古朝鮮の文字や服装、磁器、古墳、伝統的な建物などを見たとき、思わず自分の国と中華民族の文化を思い出し、親しみを感じました。

そして、グループを分けて、朝鮮大学校の学生三人と話しました。主な談話内容は在日朝鮮人の国籍問題、在日朝鮮人の言語、在日朝鮮人の就職問題、在日朝鮮人の差別です。

1、在日朝鮮人の国籍問題

朝鮮大学校の学生と先生の中に、韓国の国籍を持っている人はいます。朝鮮籍を持っている人はいます。日本籍に変わった人はいますし、無国籍の人もいる。最初、どうして「北朝鮮」で登録ことができないか、「朝鮮」の意味は一体何か、よくわかりませんでした。実際に、国人登録の国籍等の欄に「朝鮮」と表示されている者は、朝鮮半島に出自のある外国人を指すものであり、「朝鮮」という国家の存在を認めているわけではなくて、その表記は登録法制度の上の記号にすぎないです。韓国籍の場合は、「大韓民国」と表示されますが、韓国籍を取得していない場合は単に「朝鮮」と表示されます。北朝鮮と日本、北朝鮮と韓国の関係は良くない現在でも、学生の国籍はそれぞれでも、同じ民族の朝鮮族で、民族の誇りを持ち、一緒に勉強したり、生活したりとかよかったと思いました。しかし、心配しているのは、無国籍の人たちの生活は不便だと感じました。パスポートも持っていませんし、自分の証明書の中に難民と登録されました。外国旅行や訪問もできないはずです。それだけわけではなくて、日本には北朝鮮の大使館がありませんので、朝鮮籍の人たちは日本からイギリスや、アメリカなどこのような国に行けば、非常に難しかったと聞きました。ただ朝鮮籍で、その国に入国できない場合も多いと聞きました。私はかわいそうと思いました。国籍の大切さをもう一度感じました。

2、在日朝鮮人の言語

在日朝鮮人にとって、母語は日本語で、母国語は朝鮮語だと聞きました。小さい頃から毎日日本語を使っています。朝鮮語の勉強は違う人によって、違いますが、大体民族小学校で始めました。家でよく使っているのは日本語そうです。ある在日朝鮮人学生は生まれたから長い年月日本に住んでいますので、自分の朝鮮語は日本語の影響を受けて、日本語っぽいだけではなく、時々寝言も朝鮮語と日本語が混ざっていると言いました。

3、在日朝鮮人の就職差別問題

朝鮮大学校の卒業生の中に、日本全国の朝鮮民族学校で先生として、職員として働く人が一番多いはずで、新聞社や日本の企業へ就職する卒業生もいますし、大学院生になって、民族学校から日本の大学院に進学する卒業生も増えているはずです。

一番驚いたのは、そもそも日本で在日朝鮮人は弁護士になることができなかったということです。しかし和歌山県出身の在日韓国人である金敬得は外国籍の初の弁護士として知られました。彼は生前弁護士として、指紋押捺拒否事件や慰安婦戦後補償問題など朝鮮人の人権に関わる裁判で活躍していました。その後、朝鮮大学校の卒業生２人が法科大学院を経て司法試験に合格して、平成２０年１２月に弁護士登録しました。

在日朝鮮人たちはアルバイト時でも、就職の時でも、行きたい店の店長から「朝鮮人ですか。それは駄目です！」と聞いたことがあります。だからこそ、アルバイト時自分の本

名を使わなくて、「木村〇〇」、「田中〇〇」のような日本人っぽいの名前を使っているそうです。

実際に、在日朝鮮人が差別される問題だけではなく、交流した時、日本人学生は普通日本人が外国人について良くないイメージを持っていると言いました。その原因は説明してもらいませんでしたが、日本には、多くの「不法残留者」と外国人による犯罪など問題と関係があると考えました。

ここまでまとめると、在日朝鮮人の学生たちの生活や勉強、悩みなどを理解しました。在日朝鮮人の差別問題、不平等問題にういて日本社会的に高い注目度とされるべきと考えました。

朝鮮大学訪問感想文

5 月 20 日に、朝鮮大学を訪問した。朝鮮大学の歴史や発展について少し知った。朝鮮大学にある博物館を見学した。なかには自然科学、朝鮮の歴史に関するものが展覧されている。学校の中に博物館があることに、私は驚いた。このところから見れば、朝鮮大学が国の歴史教育を重んじていることが強く感じられた。

博物館の見学が終わった後、朝鮮大学の学生と交流した。交流を通じて、在日朝鮮人が固く団結していることを強く感じた。彼らが自分の国のことについて詳しく知りたいという想いを持って、小学校から朝鮮学校を通い始めた。将来も自分の子供を朝鮮学校に通わせたいと思う人が多いようである。そして、在日朝鮮人の中、多くの人が大学を卒業した後、朝鮮学校の教員になったり、在日朝鮮人をサポートする仕事をしたりすることで、朝鮮連盟を守っているようである。朝鮮学校の運営費用はおもに自分の国の政府や同胞からの送金であるということも聞いた。「日本政府は私たちを潰そうとしているが、私たち在日朝鮮人は力を合わせて、朝鮮連盟を守る」と朝鮮大学の学生が言った。以上のようなことから見れば、朝鮮人は強く結束していることが分かる。そして、私は彼らの団結精神に感心した。

しかし、小学校から大学までずっと朝鮮学校を通っていて、卒業後の仕事も朝鮮学校或いは朝鮮連盟のサポートでは、彼らはあまり日本人と接触することがないではないかと思う。日本に生活していて、日本の社会に溶け込むには、日本人との日常的なコミュニケーションが欠かせない重要なことであると考えられる。

それから、在日朝鮮人、特に朝鮮籍を持っている人が就職、アルバイトを探す時さえ差別されることがあるとも聞いた。日本の企業がなぜ在日朝鮮人を受け入れないか、ちょっとわからない。朝鮮人であっても、日本で働き、生活するので、日本の経済発展に貢献し

ているのではないか。なぜ日本経済発展に力を出している人を排斥するのか。日本人も友好的な態度で、在日朝鮮人を受け入れるべきではないかと思う。

要するに、在日朝鮮人も日本人ももっと積極的に話し合い、お互いに理解するべきである。グローバル化している今日、世界の平和的な発展をとげるために、異文化間のコミュニケーションをもっと積極的に取り組み、政府間の友好関係や民間友好関係両方を促進することが重要だと思われる。多言語多文化教育を受けている我々は、国と国のかけ橋になることが自分の責務であることを常に心の中にあるべきだと思う。

朝鮮人学校の感想

私は朝鮮人学校に始めて行きました。初めのガイダンスで一番印象に残っていることは、朝鮮籍だと入国できない国が多くあるということ、それでも国籍を変えないことでした。韓国から入国することはできるのに朝鮮から韓国には入国できないという現状があり、朝鮮籍の人の中には韓国に行きたいがいけなくて寂しいと嘆いている人もいて早く南北統一されてほしいと思いました。メディアなどを通して、韓国人と朝鮮人は仲が悪いイメージがありましたが、南北統一をどのように思っているかの質問に対しては、ほとんどの人が南北統一を願っていると言っていて驚きました。韓国と北朝鮮で分けられるのは悲しいとも言っていました。

また、朝鮮人学校の子供たちがみんな朝鮮人学校に誇りをもって暮らしていることが予想外でした。将来は地元の朝鮮人学校で働きたいと考えている人が多くいました。だから就職先の資料のグラフで教育関係の仕事に就く人が多いという結果になっているのだなと思いました。

また、現在、朝鮮人学校が減ってきているという事実を知りました。その原因は、朝鮮人学校に通わせるよりも日本の学校に通わせるほうが就職に有利だし、将来性があると考える人が多くなったからだそうです。日本の学校に通わせる、
という話の中で、いじめの問題が出てきました。ある人は、隣の日本学校の生徒から石を投げられるという経験をもつ人もいました。怖さを感じたというよりは、どうしてそんなことをするのか、という疑問を持ったと言っていました。またある人は、姉が隣の男子が旗を書いて姉の前で破いたという話を泣きながらしていたのを覚えていると言っていました。それを聞いて私は、私自身日本人であるが、なぜそういうことをするのかわからなし、子供間のいじめはメディアの情報や親からの朝鮮人の話を聞いて引き起ってしまったことなのではないかなと思いました。いじめる原因について調べてみましたが、理由は様々でした。しかし、正当な理由はないと言っている人もいます。

次の日みんなの感想を聞いて驚いたことは、選挙権の話でした。選挙権がないことに対して不快に感じているのかと思いましたが、逆に Minority は団結すべき！として選挙を通して意見が分かれないようにしているなんて思いもつかない考えに驚きました。

朝鮮人学校に行って、いじめの問題などを聞いてまだまだ在日朝鮮人の住みにくい社会であることを実感しました。また、私たちはメディアによって間違った見方を自然として

しまったり、固定観念をもってしまっているから、直接在日朝鮮人と交流したりすることが大切だし、自分の知らない世界に目を向けることが理解し合うことにつながると思いました。

朝鮮大学校を訪問した感想文

私は日本に来る前に、国内での東アジア文化と教育という授業でよく在日朝鮮人のことを聞きましたが、実際的なことを見たことがありませんでした。百聞は一見にしかずと言ったとおり、今度の課外活動をきっかけとして、在日朝鮮人の最高民族教育学府という現場で在日朝鮮人の教育と文化を少し体験しました。朝鮮人学生の向上心や在日朝鮮人の団結に感心したというような気持ちと発想はどんどん湧き出しました。

1、民族アイデンテイテイ

朝鮮大学校のキャンパスにいた時、朝鮮民族アイデンテイテイは非常に印象的でした。さまざまな物やことなどにも朝鮮民族アイデンテイテイを反映しています。第一は、朝鮮大学校の博物館です。その博物館には、朝鮮の歴史記事や動植物の標本などが展示されています。そして、標本を保存する方法等の細かいところから見ると、その博物館が学校に大事にされることはよく分りました。第二は、朝鮮大学校の校訓です。キャンパスの中心部においていて、一番大きいな建物は６０年近く歴史を持っていて、日本年鑑にも入られることと紹介されました。その誇りの建物の上には、朝鮮語で書かれている「金日成万歳」というスローガンがあることは、キャンパスに入る瞬間に気づいた。そのスローガンも朝鮮大学校の民族教育に属するではないかと思います。第三は、朝鮮大学校の学生制服です。この学校の女子学生はすべて朝鮮族服装特徴が含まれている黒いワンピースを穿いている。第四は、朝鮮学校のカリキュラムです。朝鮮大学校では、授業が朝鮮語で行われています。そして、学生の話によると、朝鮮学校なら小学校から民族舞踊の授業があるそうです。第五は、朝鮮大学校の全寮制です。学生たちは全寮制のもとで、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というスローガンを掲げ、学生間のお互い協力します。そのうえ、教師たちも学生たちに多方面で親切にサポートしたり、友たちのように一緒に食事をしたりします。

2、疑問

朝鮮大学校を訪問した後、いくつのことに疑問を持っているところがあります。まず、私たちがいた会議室と教室は電化設備が少なくて、机の上にほこりもありました。私は日

本に来た以来、初めて普段きれいに掃除されている教室と違った学校を見て、少し驚きました。それは、学校の勤務管理不善なのか、あるいは学校が財政難で掃除する人を雇用できないのか、その原因は分りません。そして、もし朝鮮大学校の教師や学生にその質問をすると、傷を付く恐れかつ失礼になると思って聞かなかったので、疑問になりました。もう一つは、朝鮮大学校に日本人先生がいない原因も分りません。学生の話によると、朝鮮大学校の先生はほとんど在日朝鮮人で、外国語を教える先生には中国人の先生などがいますが、日本人の先生はいないそうです。それは、学校が日本人を雇用したくないのか、あるいは日本人が在日朝鮮人たちに差別するのかと、もう一つの疑問になりました。

3、発想：「異」は自己の鏡になれる。

もともとは、多文化共生社会にできることをよりよく勉強するために、異文化理解とコンミュニケ―ションの授業や活動に参加しました。しかし、異なる自文化を持っている人々がお互いに交流することは、真の理解にできますか。今回の順調的なコンミュニケ―ションは、次回は憎んで別れるようになるかもしれません。それにもかかわらず、異なる文化を見る時、自分が属する文化体系を見直すことができるので、自己の鏡になれると言えるではないかと思います。そして、真の異文化理解がそこから始まります。

朝鮮人の印象が変わった

５月２０日に朝鮮大学を見学として訪問した。日本の学生と各国の海外留学生それぞれ１５人と一緒に博物館や売店を回り、最後に２時間にわたり朝鮮学生と交流した。それを通し、いろいろな感想が浮かびました。

今まで自分だけではなく、 いずれかの友達に聞いても、朝鮮のイメージはなんだとすぐに頭に浮かべば、漠然と真っ暗で微妙な思いだった。 もちろん朝鮮人に関わったこともなく、まったく自分の利益に関係ないが自分自身で検証していない噂により、朝鮮人に対して勝手によくないイメージをずっと持っていた。しかし、話を聞いたら想像よりもよく、驚きました。朝鮮大学の学生は非常に親切で、いろいろと大学校内を案内してくれて、心を開いて話もしてくれた。

日本でも、ベトナムでもアジアの国ではほとんど朝鮮人のことが報道されていない。しかしながら、この授業見学を受けて、直接話を聞くと自分のイメージと全然違うことがわかった。メディアをそのまま信じるのではなく、実際関係者の話を聞いて公平に見ることが重要だと感じた。テレビの影響を受け、朝鮮に対するあまりよくないイメージを持ち、朝鮮人に接する気がなくなっていた。なぜなら、よくしらない自分のような人が朝鮮人と接触したら朝鮮人の気に触ることを言ってしまい、両者とも困る状態になるのではないかと思っていた。このような考えから、なんとなく朝鮮への認識が狭まってしまった 。

二人の学生と話をした。そのうちの一人は、小学校の時、学校の正門を出ると、近所の若い人に虐められて、直接喧嘩を売られたことがあった。また、バイトの募集のチラシをみて、応募しようとしたら、店長に「ここは朝鮮人はいらない」と言われたことがあって、涙が溢れるほど落ち込んだ。その時は苦しくて、「なんで自分が生まれたのは朝鮮なの？」と思って、親に話したが、親が自分の子供の時からそのようなことがあったので、しかたがないと言っていた。そこで、私は政府をはじめ、すべての住民が差別をされず、平等になればいいと思う。

この学生は、親にも許可をもらい、日本の国立大学に入学するつもりであったが、高校の先生に「君のアイデンティティーが失われないために、朝鮮大学を選んだほうがいいと思うよ」といわれ、日本の大学に入る夢を諦めた。でも、今では朝鮮大学を選んで良かったことを自分で見つけられたため、彼らは必死に民族的アイデンティティーを維持しようと努力しているそうだ。さらに、母語は日本語で、母国語が朝鮮語だと認めている朝鮮の学生は自分の言語を独自に守っていくことにしている。私はそのような目標をきいて、憧れた。

朝鮮大学校を訪問して

わたしは、５月２０日に朝鮮大学校を訪問した際にたくさんのことを感じ、多くの学びや発見がありました。その中でも強く印象に残っていることをまとめようと思います。

まず一つ目は、全寮制であり生活規則もしっかりと定められていることです。例えば、門限が１９時であること、２０時から２３時までの３時間毎日勉強することなどです。それらの規則を彼らは自主的に守っているのだそうです。実家を離れ自由気ままに日々生活している私にとっては、非常に厳しい規則感じられました。しかし、このような規則にしっかり従い、集団の中で毎日を過ごすことで在日朝鮮人あるいは在日韓国人としての仲間意識や団結力を育んでいるのだと知りました。

二つ目は、国籍についてです。私自身、朝鮮籍と韓国籍についての正確な区別がついておらず、朝鮮籍は朝鮮民主主義人民共和国国籍を、また韓国籍は大韓民国国籍を表すものだと認識していました。しかし本来は、「朝鮮籍」はいわゆる北と南をひとつとして朝鮮半島の国籍を表すものだということを知りました。歴史の中で北と南を区別しない朝鮮籍というものが失われずに受け継がれていて、それは必ずしも朝鮮民主主義人民共和国を支持しているという意味をもたないそうです。国籍を変えることもそれほど難しくないようでした。また、話を聴いていると朝鮮籍と韓国籍について特に執着していないようでした。しかし、この二つの国籍には差異がありました。韓国籍の人は北朝鮮に入国できるのに、朝鮮籍の人は韓国には入国できないそうです。また、朝鮮籍の人は入国できない国も多くあるそうです。もし私が同じ立場に立ったとしたら、行きたい場所に自由に行き来できないことをとても残念に感じるだろうと思います。

最後に、祖国についてです。家族や親戚はみんな日本にいる人やそうでない人など様々な状況がありました。日本に生まれ育ってきた彼らにとって生活の基盤となっているのはやはり日本のスタイルですが、彼らはみんな祖国である朝鮮の文化や言語を本当に大切に、また、誇りに思っているようでした。「韓流ブーム」が日本で起こったときはどんな気持ちだったかという質問をしたところ、韓国のグループを私たちと同じようによそから来た

人たちだと認識するが、親近感があると答えられていました。また、学校内では生徒同士で会話をするときは祖国の言葉を使ったり、教室には北朝鮮の首席の写真が飾られたりしてありました。日本で生まれ育ちながら、祖国の文化や伝統を受け継いでいこうとする彼らの意志はとても強く、祖国を愛する気持ちの大きさを知りました。

今回朝鮮大学校を訪問して、同世代の在日朝鮮人の方々と交流することで、これまで他人事だと思っていた朝鮮半島の北と南の問題や、過去のことだと思ってしまっていた韓国や朝鮮と日本との歴史的な問題も身近に感じることができました。また、自分自身の考え方も見直すことができ、とても良い経験になりました。

朝鮮大学校スタディーツアー感想文

先週スタディーツアーで朝鮮大学へ訪ねました。私は友達と自転車で学校から行って、結構時間かかりました。着いたとき、すごく遠くて、回り何もなくて、ここで生活している学生さん達は普段は何をしてすごしているのかなっと思いました。このスタディーツアーで一番印象に残ったのが朝鮮自然と歴史の博物館です。私は初めて大学の中に博物館がある大学を訪ねました。自然博物館の中には詳しく朝鮮にある生き物を再現して展示している、中でも一番覚えているのがクロツラヘラサギ。ちょうど私が日本に来る前に台湾の学校でクロツラヘラサギについて勉強しました、そのとき朝鮮の人達はクロツラヘラサギの保育に取り組んでいるのをビデオで見て知り、今回はイギリスの BBC が取材した場所を自分のこの目で見る事ができて、すごく嬉しかったです。歴史博物館では朝鮮についての歴史が書かれていて、私が思ったより何でも展示してあり、世界遺産に登録している昔の大きなお墓も再現してみる事ができる。本当に学校の中にある博物館と思えないくらい素敵な博物館でした。博物館だけでなく図書館の中の書類もほとんど朝鮮から送ってきたのが一番すごい感心だと思いました。その後の討論会はすごく楽しかったです。最初はグループみんな緊張してあんまり話してなかったけど、話題の進みに連れてどんどん盛り上がっていきました。その中で私がもっとも気になった話題が国籍問題でした。朝鮮大学校の中の生徒や先生達の国籍はほとんど朝鮮籍でした。最初みんなは韓国籍だと思っていたので聞いたときは驚きました。でもみんな自分の国籍が朝鮮籍という事に対してそんなに気にしていないようだった。今の韓国は南と北に分裂し対立しているけど、学生さん達の心のなかではハングルを話す朝鮮民族は一つの民族であり、自分は日本に暮らしているけど、自分の母国の文化を忘れずにみんなで守り続けていることは本当に素晴らしいことだと感じ、感動しました。朝鮮籍を持つ学生さん達はバイトや就職の時にいろんな壁にぶつかっているけれど,それでも頑張って自分の母国でない国で生活していることはかなり大変だということだと思いました。私はこのスタディーツアーを通し、たくさんの事がわかり、大変いい経験になりました。これからは国籍を問わず差別をせずいろんな多文化の人達と交流し、ふれあいたいと考えています。

朝鮮大学校を訪問して感じたこと・考えたこと

私は朝鮮人の学校があることは知っていたけれど、どんなところで、どんな人が学んでいるのか全然知りませんでした。朝鮮大学校に足を踏み入れてまず最初に感じたことは、全

体的に古い建物であまり大学っぽくないなということでした。また、周りにいた職員の方が全員朝鮮語で話していたので、日本にいる感じがあまりしませんでした。

そのあと案内された教室は日本の学校と同じような教室で少し安心しました。そこでされた在日朝鮮人の歴史は初めて知ることばかりで、自分の知らなさに恥ずかしく思いました。どうして在日朝鮮人がいるのか、わたしたちは日本人として知っておくべきであると思うのに、中学や高校では少し触れるか触れないか程度で知らない日本人の方がおそらく多いことは見直さなければならないなと思いました。

グループ別での座談会は自分の今まで培ってきた価値観を別の視点から見直すことができました。文化間の違いや国家間の認識の違いにおいて、何が正しくて、何が間違っているのか、ということを判断することがそう単純ではないこと、その難しさを身に染みて感じました。話している中で特に印象に残ったことは二つあり、一つは国籍についてでした。私の話した学生は、両親も朝鮮籍で彼も朝鮮籍でした。講義の時に、朝鮮籍では苦労することが多いと聞いていたので、なぜ国籍を変えないのかを質問しました。すると、彼は「もし、あなたが自分は日本人であるのに、日本国籍が不利益なことが多いからと言って、国籍を変えようと思いますか？」と私に聞きました。私は国籍というものについて深く考えたことはありませんでしたが、なんとなく「変えようとは思わないと思います。」と答えました。すると彼は「そうでしょう？僕も変えたいとは思いません。朝鮮籍であることは自分が生まれたときから決まっていたことで、それが自分のアイデンティティを作り上げてきたし、苦労するからと言って、自分の国籍を変えるということは、自分を否定するような気がするんです。」と言いました。私は正直、講義をしてくださった先生が、「国籍は変えないつもりです。」
とおっしゃったとき、変えてしまえばいいのにと思っていました。けれど、自分がその立場になった時を考えたとき、その先生のおっしゃった意味が分かったような気がしました。二つ目はメディアについてです。私が日本のメディアについてどう思いますか？と質問すると、彼は即座に、「本当にあきれています。」といいました。「海外のメディアは真実を伝えようとするけれども、日本のメディアは真実よりも、自分たちの見解ばかりのべる。」と。私自身テレビをよく見るので、ニュースなどで見るように、朝鮮は独裁国家で怖いイメージがありました。すると、彼は「朝鮮に対してどんなイメージがありますか」と聞いてきました。私は言ってよいのか分かりませんでしたが、思い切って自分が思っているイメージを言いったところ、彼は自分が朝鮮に行ったときのことを話してくれました。現地の人は金日成が成し遂げたことなどに心の底からとても感謝していたのだそうです。これを聞くと洗脳されてると思われるかな～と笑いながら彼は言っていました。正直私は、テレビで脱北者について取り上げたものや、脱北した後にその人の家族がどうなるかなどを特集していたものを見たことがあったので、朝鮮に対して怖いイメージは今でも抜けていません。しかし、日本で育った彼がそう感じたということに衝撃を受けたことは確かです。実際に現場で生活していない限り真実は分かりませんが、自分がいかにメディアによって固定観念を植えつけられているかを知ることができました。情報が錯綜する中で、正しい情報を得ることは難しいかもしれませんが、出来るだけ正しい知識を身に付けて、その情報に対して自分なりの見解を持つことが重要であると感じました。

私は今回の朝鮮大学校訪問を通して、多文化共生ということの難しさを改めて認識することができました。いかにして多文化共生はなされるのかという問いの答えはそう単純ではないのだと実感しました。これからの４年間で、多文化共生のために自分には何ができるのか学んでいきたいと心から思うことができ、とても勉強になりました。

感想文

ー朝鮮大学校交流会について

２０１５年５月２０日、朝鮮大学校に訪問した。まず、学校の先生は学内案内して、会議室で学校の歴史とか民族教育の現状等をお話になった。「朝鮮大学校は、在日朝鮮人の民主主義の民族教育の最高学府として、１９６５年の創立下」って語った。始めいて見ると、この学校は少し小さくて古い。教学ビールでも図書館でも非常に地味だと思う。でも、日本で朝鮮大学校を創立して、在日同胞社会を担う人材を数多く輩出し、その社会的使命を果たしてきました。本当に感動した。それから、学校の自然博物館と歴史博物館に見学した。たくさんの画や石や古墳朝鮮から送った事を聞いて、驚いた。始めいて、外国の歴史についての博物館を参観して、新鮮だと思う、でも、気につけたことは色々な古代の器物は中国吉林省に出土した。その原因はなんですか、そしてその器物どのように中国から学校に移動した、この展示物の隠れた部分に興味を持っています。

その後、班を分けて朝鮮大学生と交流した、彼らは日本語も英語も朝鮮語もできる、本当に素晴らしいと思う。学校で日本語が母語として話す学生も日常生活に朝鮮語で話せなければならない、その目的は自分が朝鮮人、国の歴史や地理は絶対忘れないって気つかせる。この学生と交流して、おかしいルールが知った。例えば、ウイークデーに７時半以降と寮に入れない、これは厳しい、少し不自由だと思う、でも、学生もう慣れた。いろいろな質問を聞いて、やはり国によって、様々な事について観点が違うと感じた。私はもう３年生だから、１年後帰国して就職することに踏まえなければならない。朝鮮大学校の皆さんの進路に興味を持っている。資料を見て、「過去５年間、卒業生のうちおよそ半数が朝鮮学校の教員」と知っていた。そして、１班の朝鮮大学生は「自分が親になったときに、子供をどちらの学校に通わせるのか」という質問を聞いて、回答は全部（６人）「朝鮮学校に通わせる」だ。やはりみんな互いに朝鮮学校と認職している。そして、本学は学部別に、祖国で短期研修を行う、また研修期間中、平壌市内や各地の景勝地の観光、登山や海水浴など、祖国の自然とも親しんでいる。祖国での短期研修を通じ、学生たちは一生の思い出を得るとともに、豊かな民族的素養と専門知識を身につけると思う。私は関心なのは、研修生が朝鮮国内の人と言語通じることと違和感が有無のことだ。当日、舞踊部のサークル活動があった、チャンゴとポとチン、ケンガリを利用してみんな笑顔でダンスした、古代農民が豊作になるや解放する楽しみを現れた。もう二つ注意点があった、一つは『朝　日大学友好ネットワーク』大切な学び合い、相互交流と情報共有　発信の拠点となって、様々な活動にはげんでいる。もう一つは朝鮮伝統的な服だ、記念日や祝祭日など、晴れの日には色とりどりのチョゴリでおめかし、面白そうだと思う。

自分一番言いたいのは、学生達はこの学校で自分の存在感を持って、楽に勉強したり、遊んだりすることが一番いいと思う。

ここで訪問して、異文化理解についてもっと深い理解している。本当にいい経験で、将来もいい思い出だと思う。

私は初めて朝鮮大学校に行った。この前に朝鮮大学校が日本にあるのを知らなかった。すごく驚いたのは私達を迎えに来た朝鮮大学校の学生がとても豪放に私達と話し合った。学芸大学でまだ学芸大学の学生と話すときは時々違和感があってしまい、朝鮮大学の学生と話したときはこんな違和感が全然感じなかった。たぶん、この学生は私達のように日本人じゃないので、他国に住んていることと文化の違いの気持ちをよく分かるかもしれないと思う。そういう訳で、気軽に私達と話すことができたかもしれない。幾ら何でも、気分がとてもよかった。

その上に朝鮮大学校に博物館があることも驚いた。私の大学のいくつかの研究所にも研究に当たる博物館があるが、朝鮮大学校は他の大学に比べると小さいと思うから、朝鮮に関係がある色々な分野が展示したことが私にとっては意外だった。時間があると、この博物館で朝鮮の歴史や朝鮮に生きる動物などにつてよく勉強することができると思う。

最初に、朝鮮の歴史の講義があり、はじめに内容をよく分かると思ったが、教師の話しがどんどん早くなってしまったから、だいたいの講義は難しい過ぎた。私の大学で日本学、つまり、日本の政治や歴史を勉強しているので、ぜひ朝鮮と日本の歴史の共通点を知りたいが、こんな複雑な講義の代わりに私が本などを読んだほうがいいと思う。

朝鮮大学校の学生と一緒に様々な朝鮮に関する質問を相談し、面白かった。岡先生が準備してもらった質問だけでなく、自分に興味があるトピックの質問も聞いた。学生がいつも我慢し、すべての質問を懇切に回答した。

この話し合いとき、初めて女性は皆、制服を着ていて、男性は制服を着ていないことに気がづいた。残念ながら、どうして女性だけが制服を着ていることを聞くのを忘れてしまった。

いっぱいの話し合いの上に、朝鮮の民族音楽を聞いたり、朝鮮の伝統的な踊りも見せてもらった。朝鮮が中国と日本の中間にあり、中国と日本から影響されたから、朝鮮の民族音楽と踊りも中国と日本の民族音楽と踊りの類似がある思ったが、見せてくれた踊りで舞踊家は踊りながら鼓を打っていて、笑顔で踊っている。

つまり、朝鮮大学校の歴史だけでなく、朝鮮の文化も色々なことを知ってきた。ぜひ他の朝鮮大学校のような学校を訪ねりたい。

朝鮮大学校の見学感想文

今回朝鮮大学校を見学することで、そして当地の学生達と交流ができ、単なる教科書のようではなく、自ら彼らのことを理解していくこと、本当にいろんなこと勉強をしました。見学は三つの部分があります。当地の先生の紹介から、そして学内案内、最後は朝鮮大学生との交流です。

最初は先生が授業中にも言ったことけれど、当地の先生の解説のほうが詳しく、または在日朝鮮人の境遇にもわかっています。歴史からみると、なぜ今でも在日朝鮮人の身分はそんなに険しく、いわば歴史から残された問題からです。

次は校内の見学で、主に博物館の部分で、朝鮮大学校での展覧品はほぼ朝鮮から直接に運送されてきました。博物館では歴史と自然の部分をわかれて、大自然の部分なら直接に実際の所に見に行けばいいと思います。個人的に歴史のほうに興味があります。歴史をわかれば、今の在日朝鮮人のことをさらに理解してゆきます。もし今回の見学がなければ、一生わざと自らから朝鮮半島の歴史を理解しにいかないかもしれません。

最後は朝鮮大学生達との交流会、みんなが一番楽しみしていることです。私のグループでは男が二人で、女が一人で、女の子は朝鮮服を着ていて、自分の制服であることを言いました。制服は毎日着ることで、でもこの日は女の子だけが着ていました。次に質問に入って、日本生まれだが、身分の問題で、差別を受けたことがあるかを聞いて、あると決まっていますと、朝鮮学校ということで、日本の政府は認めずに、補助もないということです。あとはアルバイトを探したいときにも、外国人だと思い、断ったこともあったと言いました。

交流会でも、ほとんど身分の認定について語りました。在日朝鮮人のパスポートは朝鮮で、海外にいくときすごく不便です。この原因で在日朝鮮を在日コリアンに変更する人を少なくないです。または今の第三代の在日朝鮮人にとって、小さい頃から日本で育って、第一言語も日本語でも、自分のことは日本人だと思わなく、朝鮮或いは韓国にとって、彼らも朝鮮人と韓国人でもないです。同じく台湾は国際上でも身分の認定に関する問題でもあるですが、パスポートではそんなに大した問題ではないです。交流会は一時間だけで本当に短く、でもこの一時間で単なる話すことではなく、実際に在日朝鮮人の心の声を聞き受け取りました。

朝鮮大学校へ訪問した感想

民族学校が日本にあることは知っていましたが、今まで身近に感じたことはなく、なんとなく遠いところの話だと思っていたので、学芸大学からそんなに離れていない場所にこのような民族学校があったことに驚きました。そのうえ、行き先が朝鮮学校であるというところにさらに衝撃を受けました。在日朝鮮人のための学校の存在すら知らなかったからです。そして、行く前は北朝鮮との結びつきが強いのかなと思っていたので、あまりいい

印象を持つことができませんでした。おそるおそる…という感じでハングルの書かれた門をくぐると、外観は普通の学校であったために、少し拍子抜けしました。部屋に入り、先生方からの説明を聞いてみると、私たちが経験したこともないたくさんの問題に直面していることがわかりました。一番驚いたのは、韓国が祖国だとしても、朝鮮の国籍のせいで入国を許されることは稀であることです。出身国であるはずの国の人々から差別され、白い目で見られることはどれほど辛いのか私には想像もできませんでした。しかし、学生の方から話を聞くと、朝鮮籍であることを恨んだことはなく、むしろ誇りに思っていたので意外に感じました。私が話した学生さんは、自分が朝鮮人であることをすごくポジティブにとらえていて、朝鮮大学校の生徒であることが嬉しいのだと話してくれました。日本国内では全体数がすくないため、全国の朝鮮人で団結し、強いネットワークを作ることが出来るからなのだそうです。私は、日本人としての帰属意識について考えたことがなかったので、そんな風に考えられることはすごいと思いました。国家をよくするために自分に出来ることは何なのか考えられていて、自分ももっと将来について深く考えるべきだと自省しました。

また、朝鮮に祖国訪問したときに知らない内に朝鮮への固定観念を持っていたことに気づかされ、恥ずかしかったと教えてくれました。祖国のことなのに、日本のメディアからの情報だけで無意識に判断していた自分がすごく情けなかったそうです。現実の朝鮮国民は、本当に朝鮮国が好きで、ただ家族の生活をよくするために働いていることを知り、実際に相手と触れ合うことの大切さを学んだといわれたときに、私は朝鮮国に固定観念を抱いていた自分も同じだと思いました。実際の国の様子を知らないのに、イメージだけで判断してしまうことが、結果的に差別につながるのだと気付きました。そうした考えを私たちが抱いていたからこそ、在日朝鮮人の方々がひどい差別やいじめを受け、傷つかねばならなかったのかなと思いました。この反省から、これからは一方的に情報を受け取り、それを鵜呑みにしたまま正しいと思い込むのではなく、しっかり真偽を確認し、主体的に正しい情報を求めに行ける人間になりたいです。

今回、朝鮮大学校で在日朝鮮人の方々と交流できたのは、本当に貴重な経験で、これからもずっと交流を続けていこうと思います。次に会ったときは、もっと深い内容について話ができるよう、自分の教養を高められるように頑張ります。このような素晴らしい機会を与えていただき、ありがとうございました。

朝鮮大学校の見学

五月２０日に朝鮮大学校の見学が行いました。世界中から留学生は日本人の大学生と一緒に大学へ在日と交流しに行きました。

着いたとたんに灰色で、暗くて、見にくいビルが目の前に現れました。「こんなビルで勉強したくない」と思いながら入りました。座ってから大学の教授が挨拶して、講演を言い始めました。部屋が暑くて、空気が厚くて、集中できなかった。講義は在日コリアンと朝鮮大学校につて一時間くがい続きました。正直言うとつまらなくて、わかりにくい講演でした。教授の喋り方は早くて、声が小さくて、全部聞き取れなかったと思います。まるで留学生のために講演だと忘れてしまいました。残念ながらそんな講義を聴くより在日について論文を読むほうがいいと思います。

講義を聴いてから博物館に連れられました。いろいろな朝鮮からの展示品を見せてもらって、面白かったです。芸術に興味があって、壁画や宝飾が気に入って、見る時間が足りなかったと考えます。意外にも朝鮮から持ってきて蝶々や虫と鉱物がきれいである反面、ま

るで生きているように動物が気持ち悪くて、不必要でした。朝鮮大学校の博物館は未公開で特別許可がないと見ることができません。残念なことだと思います。朝鮮の文化に興味があるの人に展示会を見る機会を与えてもらうべきです。

見学の一番面白い点は交流の機会でした。九人ずつのグループに分かれて、三人の在日の大学生と一時間くらい話し合って、話題は多種多様でした。相手を尋ねて、質問を聞かれて、朝鮮と私たちの母国について話しました。アイデンティティの話が私にとって一番興味があって、聞いた時コリアンの学生が「よくわからなくて、そんなことにつてあんまり考えていません」と答えました。韓国に行ったことがなくて、ずっと日本に住み続きたがって、自分のこと「韓国人」それと「日本人」を考えていません。言葉なら韓国語で話すや読むと韓国語で考えると夢を見ます。しかし、日本語で話す時日本語で考えると言ってもらいました。私ならアイデンティティの問題がなくて、そんなことを想像できません。他の話題なら、政府と代議と投票権のこと話したところ、投票権がないとわかりました。ないはともかく、ほしくないと言われたら、吃驚しました。三人は子供の時から今でもいじめられて、差別を体験します。アパートや仕事を探しているとすぐ断れる件がよくあって困ります。ときどき面接に行く時偽名の日本の名前を使わなくてはなりません。
最後に「もっと交流したら、ぜひまた来なさい」と言われて、文化祭りと他のイベントに誘われました。もう一つ気になったことがあって、珍しい女子の服について聞いたところ、女子の日常な制服だとわかりました。どうして女子だけ制服を着てならないでしょう。すごく不公平で差別の一種だと思います。次回必ず男女平等の問題について聞きたいと思います。

朝鮮大学校の感想文

2015 年 5 月 20 日に朝鮮大学校に訪問し、グループ分けで朝鮮大学校の生徒といろいろなことが交流できた。交流会では日本での在日朝鮮出身者の生活をはじめ、学生生活など、話して、私はいろいろなことを感心した。

一つ目は、朝鮮出身者の民族への誇りだ。人間は周りの環境の影響を受けて、変わっていくものなので、出身地の思いや民族のアイデンティティーを残すことが簡単なことではない。しかし、朝鮮大学校の生徒たちは違う。民族の文化・言語・習慣を守って、生活している。朝鮮大学校が自分が朝鮮籍だと誇りに思って、言えることに私はとても感心した。私のグループの中では、高校まで日本の学校にずっと通っていた人がいた。高校生までは朝鮮語を少しでも話すことができなかったそうだが、自分の母国語が話せるように、韓国に留学していた。そして、朝鮮大学校に入学した。ずっと日本の学校が通っていたので、以前朝鮮のことがあまりわからなかったが、今友達と楽しく生活できるそうだ。朝鮮大学校に入学して、よかったと語った。親になったら、子供を朝鮮大学校に通わせると考えているようだ。

二つ目は、在日朝鮮人にとって、日本での生活は困ったことがあまりないが、やはり日本人に差別されること。グループの中では、バイトの面接に国籍を聞かれて、朝鮮籍だと答えたら、うちはいらないと言われたという話があった。その話を聞いて、私は本当にびっくりした。朝鮮大学校の生徒は日本人のように日本語がぺらぺらに話せるし、ただ朝鮮籍といって、受けられないことはやりすぎると思う。たとえ、日本と北朝鮮の関係とはよくないといっても、別の話なのではないかと思う。この生徒たちは日本に生まれ育てられ

たし、日本で住みたくて、来日したわけでもないし、もっと平等にしてほしい。また、日本の学校に通っていた生徒にいじめられたり、差別されたり、したことがあるかと聞いたら、「日本の名前を使っていたので、自分が超船籍だとは知られなかった。いじめや差別などされなかった」と言っていた。近所の日本人の子供に石を投げられたという話もあったので、もし朝鮮籍だと知られたら、どうなるか私は考えた。

三つ目は朝鮮出身者の北朝鮮と韓国に対しての思いに感心した。北朝鮮と韓国が分かれていることが寂しいという発言があった。そのことを聞いたら、やっぱり、だれでも自分の国には悪い目にあって欲しくないと改めて思った。そして、その話を聞いて、自分の国のことを思い出した。タイは数年前ずっと政治問題が緊張して、国民がたくさんの斑に分けられて、戦っていた。あの時、朝鮮大学校の生徒と同じような気持ちだった。また、タイで流れている北朝鮮についてのニュースは悪い面ばかりなので、私は北朝鮮のことがあまり理解できないまま、勝手に北朝鮮がよくないと考えていた。今回の朝鮮大学校の生徒の北朝鮮についての話を聞いたら、北朝鮮の印象は少し変わった。

朝鮮大学校の生徒たちの話を聞いたところ、やはり日本は永住者にとって住みやすいとは言えない。ただ私たちができることは、その人たちを差別しないことだと考える。また、民族のアイデンティティーは重要なものだと思う。そのアイデンティティーを守らないと、いつか失ってしまうので、民族の教育が必要だと思う。これから、在日朝鮮人に民族のアイデンティティーを守って生活してほしい。

朝鮮大学校を訪問して

私は今回、朝鮮大学校を訪問して新たな発見が多くありました。

まず、日本に朝鮮学校があることすら地方出身の私は知らなかったので、こんなに身近にあったことに驚きました。現在でも多くの朝鮮籍、韓国籍の在日外国人が居る中で、朝鮮学校はどんどん減少しており、経済的な問題だけでなく距離の問題で朝鮮学校への進学をあきらめる人も多いと聞き、このままでは在日朝鮮人のアイデンティティはどのように残っていくのだろうか、と思いました。また、祖国から朝鮮大学校への寄付金の大きさに、期待の大きさも実感したので、日本人がもっと関心を持っていくべきだとも考えました。

また、全員が差別を受けたことがある、ということを聞いて、単なる異文化理解だけでなく在日朝鮮人がどのような境遇なのか、ということを理解することも必要だと思いました。

国籍の在り方も考えさせられました。自分の意思に反してアイデンティティより利便さを優先して日本国籍を取得する人もいると聞いて、国籍とはいったい何のためにあるのだろうか、と思いました。グローバル化、と言われている現代だからこそ、国籍の在り方を見直すことも必要だと考えます。

そして何より、私は今回朝鮮大学校を訪問して、韓国、朝鮮の印象が大きく変わりました。日韓関係、日朝関係は一時期よりは落ち着いたものの決して良好とは言えません。拉致問題や慰安婦問題はあるものの、多くの人が直接被害にあったわけでもないのになぜこんなにも、特に朝鮮人に対して嫌悪感を抱くようになってしまったのか。やはり、メディアの影響力は大きいと思いました。正直私も朝鮮国に対しては多少なりの差別意識がありました。しかし、今回韓国籍、朝鮮籍の学生と直接話して、自分たちと何ら変わりのないことに気づき、罪悪感も芽生えました。メディアに対しての意識を変化すると共に、日本の歴史教育の在り方も見直すべきではないか、と思います。

今回朝鮮大学校を訪問して、私は本当に良い経験ができたと思います。これらのことが知れたのは教師の道に限らず、これからの社会で生きていくためにとても重要なことだと考えます。この経験を無駄にしないためにも日本と朝鮮半島の関わりを深く理解したいと思います。また、せっかくこんなに近い距離にいるので、今回で終わりにせず友好を深めていけたら、と思います。

朝鮮大学校訪問について

私は、朝鮮大学校という存在について、よく知りませんでした。しかもこんなに近くにあって、自転車で約３０分もこげば在日朝鮮人に会いに行くことができる、その素晴らしさに気づきました。とても交流のしやすい環境に自分が置かれていることに感謝したいとおもいます。

訪問する前、朝鮮大学校には、教室に金日成氏と金正日氏の写真が飾られていると聞いて、正直少し怖い印象を受けました。独裁体制ではない日本で暮らしているせいか、独裁っぽい雰囲気に違和感を感じてしまっていたからかもしれません。

しかし実際は何も怖いことはありませんでした。学生さんは、日本人大学生と何ら変わらない、いたって普通の大学生でしたし、何よりみなさん優しかった。政治の体制がどうであれ、学生さんを見れば朝鮮学校の教育はきちんとされているのだな、と感じました。

印象的だったことがあります。それは、朝鮮の方々は皆、自分の国に誇りを持っていることです。「自分は朝鮮人だと思いますか？日本人だと思いますか？」「日本国籍にはしないのですか？」という質問を投げかけたときに、「両親も自分も日本で生まれ育ってきたけど祖父母は朝鮮人です。日本人の生活とほとんど同じだけれど、自分の家系の歴史を学んだりすると『自分やっぱり朝鮮人なんだな』という実感がわいてくるし、朝鮮人でなければならないと思います。朝鮮（韓国）籍を変えることは、自分のご先祖さまが生きてきたそれまでの歴史を捨ててしまうような気がするから変えたくはないです。」という返答がかえってきました。純日本人の私にとって、国籍について考えたことなんてなかったけれど、朝鮮の方々にとっては国籍は重要なアイデンティティーになるのだなと思い、朝鮮籍によって差別される問題などを考えると胸が痛くなりました。

自分の知らない世界をのぞかせていただけて、とても貴重な体験をさせていただきました。自分の知らないところで苦しく思っているひとがいたことに気づくことができたのも、この学校を訪問したからです。政治的な問題は抜きにして関わりあえる関係をすべての朝鮮人、日本人に築いてもらいたいと思うし、私たちが積極的にそれをつくるきっかけになれたらと思います。

朝鮮学校を訪問して

私は、小学校４年生の時、深夜に一人でサッカーワールドカップの試合を TV で見ているときに、いきなりニュースで北朝鮮からテポドン２が発射されたことが発表され恐怖でいっぱいになったことを覚えている。それ以来、北朝鮮という国に対して良い印象を持つことができずにいた。そんな私はたとえ日本の学校であっても朝鮮学校で朝鮮籍の人と交流することで変わるだろうかと疑問を持って見学に挑んだ。私が朝鮮学校を見学して初めに見た文字は朝鮮学校「金日成、万歳」という言葉を目にした。あたりはハングル文字に

溢れ、教室には金日成と金正日と後者に書かれた絵があり、日本とは思えない雰囲気を感じた。そんな中、一日の交流を通じて私は、その国の政治はその国民の持つ考えにあまり強く影響していないこと。人との交流こそが大切であることを強く感じました。学生での交流では私たちとの多くの共通点があることを知り親近感が湧いたし、先にドアを開けて部屋に入らせてくれる彼らには、優しさを感じました。政治とかで偏見を持ってしまうのではなく、人と人がまっすぐに向き合い交流することの可能性を感じた。直観的な学びを感じた。

学問的な面で学んだことして特に印象的だったのは歴史についての先生の発言で「日本と朝鮮の歴史において、関係が良好だったときの方が長く、今の悪い関係に置かれている状態の方がはるかに短い。だからお互いの良い歴史を振り返り、感謝しあえばよい関係に戻ることの第一歩になるのではないか。」という言葉がすごく印象に残っている。確かに、朝鮮からきた渡来人が私たちに農作を伝えたことで私たち日本人の今の食生活が成り立っている。主食の米はまさに朝鮮からの贈り物で私たちの命を支えてくれているものだ。そう考えたとき感謝の気持ちでいっぱいになった。こういうことを両国の歴史教育の面で認識させていくことができれば、関係を修復するために歩みだそうとする人が増えるのではないかと思った。

また、国籍の話で印象に残るものがあった。朝鮮の国籍だとイギリス、アメリカ、フランス、隣国の韓国でさえ入国できない国があると聞いて驚いた。彼らの中に留学するために朝鮮の国籍から韓国の国籍に変える人もいる様子だった。そんな中彼らの中には国籍を変えることに抵抗はあるのか。また、なぜそんなに苦労する状況にあるのに大半の生徒は朝鮮籍でいるのか。という疑問が浮かび、質問をしてみた。すると、彼らは特に国籍に対する特別なこだわりはなく、冷戦以前の韓国北朝鮮が統合された状態が故郷であり、朝鮮、韓国どちらも同じと思っている人が多く、何か不利益を受けることがあれば国籍を変えても構わないという意見が大半であった。しかも、彼らは国籍と自分自身の思想はあまり関係ないと思っている。と言っていた。ただ、国籍にはこだわりが少ないが民族学校や親から教育を受けてきたため朝鮮民族の誇りを大切にしようとする気持ちについて話を聞くことができた。

見学後 LINE を使い、朝鮮学校の強制労働について学んだフィールドワークついて話を聞くことができた。今後とも交流を続けて、私は日本人の友人として彼らと共に日本にある在日に対する問題についてさらに考えていきたいと考えている。

朝鮮大学校を訪問して

私は今まですべての朝鮮人に対して良いイメージを持っていなかった。しかし、今回朝鮮大学校を訪問して、そのイメージが大きく変わった。

朝鮮大学校に通う学生の多くは、日本で生まれ育ったため、母語は日本語だが、母国語は朝鮮語である。高校まで日本の公立学校に通い、大学生になって朝鮮大学校に通うようになってから朝鮮語を学び始めた人もいた。彼らは朝鮮人であることに大変誇りを持っていると言っていた。朝鮮人は協調性や団結力、仲間意識が強いと誇らしげに教えてくれた。その一方で、みんな朝鮮人を本気でやめたいと思ったことが何度もあったという。アルバイトをしようと応募しても、朝鮮人だということがわかると「朝鮮人はうちにはいらない」と言われ、採用を断られる。家族でアパートを借りようとしても断られる。お姉さんの日

本人の友達が朝鮮の国旗を描いて、お姉さんの前で破ったところを見たという人がいた。ほかの朝鮮人学校に通っていた時に、隣の日本の公立学校の生徒によく校門のところで待ち伏せされ、石を投げられていたという人もいた。彼らは、日本で生まれ育って、日本語も問題なく日常的に話せるという点で、私たち日本人と差がない。私が今回会って話を聞いた朝鮮大学校の学生は、人間的にもとてもよさそうな人ばかりであった。それなのにどうしてこんなにもひどい差別を受けなければいけないのか。

実のところ、私も今まですべての朝鮮人に対して良いイメージを持っていなかった。しかし、私は今まで朝鮮人に直接会ったことも、朝鮮人の性格についての噂なども全く聞いたこともない。私が今まで持っていた朝鮮のイメージは、長年日本のメディアによって報道されている拉致問題や核兵器問題によるものであった。しかしそれらの報道は日本のメディアを通して編集された、日本目線に偏ったものである。そのため朝鮮の意見は十分に反映されておらず、きちんとした確認もとれていないため、信憑性は定かではない。実際、朝鮮大学校の学生にミサイル問題についてどう思うかと尋ねてみたところ、「あれは人工衛星なのに、日本人に信じてもらえず心が痛い」と言っていた。

グローバル化に伴い、様々な国の人と出会う機会が増えている現在、メディアの報道をうのみにせず、きちんと双方の意見に耳を傾け、自らの頭で信憑性を判断することの大切さが増している。

また、日朝間で起きている問題が本当であったとしても、それは朝鮮人全員ではなく、一部の中心的人物が画策したことにすぎない。私たちは、個人として見るべきところを、〇〇人としてその国全体の人に当てはめてしまっていることが多い。そうではなく、きちんと個人を尊重して物事を見つめることが大切である。

朝鮮学校を訪問して…

今回朝鮮人学校を訪問するまで、私は在日朝鮮人について知識もなく、深く考えたこともなかった。日本に暮らす外国人という認識しかなく、知りたいと思う機会もなかった。しかし、今回の訪問を通して、在日外国人に対する日本国民の認識の低さを彼らから学ぶことができ、自分自身在日外国人についてより知識を深めたいと思うきっかけとなった。

朝鮮人学校の学生の方との交流のなかで一番印象に残ったのは、彼らがもつ「在日朝鮮人」としての誇りである。彼らは日本でさまざまな差別の中、いろいろな不利益を受けて暮らしている。朝鮮籍の方は母校である韓国に帰ることもできない。しかし彼らはそれを自らのアイデンティティとして捉え、「在日朝鮮人」としての誇りをもって暮らしていた。会話の中で外国人の参政権についての話になった際、参政権を持ってないことをプラスととらえる考え方に私は驚いた。彼らにとって大事なのは、日本を変えることよりも、マイノリティとして団結することなのであって、党によって意見が分かれたりすることなど望んでいないのである。いままで偏った観点から外国人は参政権を持つことを望んでいると思い込んでいた私は、それがすべての人に当てはまるわけでないということを実感した。また彼らは異文化理解のためには、お互いの歩み寄りが不可欠であると述べていた。それは私自身今回の訪問通して感じたことであり、実際に交流し、直接触れ合うことでしか感じ取れない何かがあることを学んだ。この訪問の経験をもとに私自身、異文化理解についての考えがまた少し変わり、より直接的なかかわりの大切さを知ることができた。

朝鮮大学校の訪問（2015.05.20）

前週の水曜日に岡先生の「多文化異修科目Ａ」という授業の修学旅行で朝鮮大学校を訪問しました。なぜなら、朝鮮のことや在日朝鮮人の生活の問題や在日朝鮮人は日本についてどう思うかなどについて知りたいからです。
朝鮮大学校に到着したあとで、朝鮮大学校の先生が日本にある朝鮮の学校歴史についてのスピーチをしてくださった。そのあと、先生に朝鮮大学校とここにある朝鮮博物館を案内していただきました。博物館にいろいろな歴史的な面白い朝鮮からの出品物があり、たとえば朝鮮に存在している動植物、ミニチュア歴史的な船と町がありました。そこにも先生から歴史などについての説明をいただきました。
しかし、私にとって一番面白いのはその後にあったことです。朝鮮大学校の学生が私達とたくさんのグループを作って、交流しました。私のグループには１０人がいました。いろいろな国からの人だったから、たくさんの意見や経験があって、とても面白かったです。たとえば、「どんな言語で考えている？」、「日本についてどう思う？」などを在日朝鮮人の学生に聞きました。そのうえ、在日朝鮮人の学生は自分の生活での問題について話しました。在日朝鮮人だったら、日本人からの差別のせいでときどき仕事や自宅を見つけることが本当に難しそうです。 で、日本語は母語なのに、他の人が「日本語は上手ですよね！」と言います 。日本で永住しているけれど選挙にも参加できません。
トリア大学の先生のおかげで毎週一回にその大学校に行って、ドイツ語を教えているからもう少し知っていましたけど、前週の修学旅行のおかげで色々な新しいことを知って面白い経験をしていただきました。特に、在日朝鮮人の学生と交流は一番面白かったと思います。次のブラジル人学校の修学旅行を楽しみにしています。

わたしの朝鮮大学の感想

最初に初めて朝鮮大学に行くと聞いた時に少し驚いていました。

ふつうに朝鮮のことを聞いたら、北朝鮮についてはなしていると、日本と北朝鮮は今そんなに仲良くしていないので、少し変と思いました。

後でもう少し詳しく説明されて、もとそのことを分かりになりました。

それでも、そんな特別な大学があるは私にとって面白いです。

スウェーデンでは、マイノリティーはぜったいに普通の学校に含めています。

そこに行って、他の皆さんと一緒に話しかけて、いい感じと思いました。

見た目の時、そんなたいした所ではなくて、少し鈍い芭蕉と思いました。

でも、もう少し中に行って、皆さんと話して、いい雰囲気と気付きました。

最初に日本で朝鮮学校の歴史について説明してもらって、私にとって一番面白いなことは

国籍のことです。そのことは後で朝鮮大学の学生たちと話して、もうちょっとそれを教えてもらいました。

でもその前は学校の博物館に入って見て、韓国の歴史的なものや科学的なものなどあって、全部は朝鮮からもらったものです。

それで、皆はグループに分かれて、もう少し朝鮮大学の学生たちと交流していて、色々なことを聞きました。例えば、私たちのグループでは 4 人の朝鮮大学の学生はいて、皆は小学校ころから朝鮮の学校で勉強しました。

ふつうの学校で勉強したかったと聞いて、はいと言った学生は多かったです。

なぜというのは例えば部活のことでした。

朝鮮ではたくさんの部活がなくて、たまに特別な興味があって、遠くへ行かなければならないが、すぐ近くでその部活のふつうの学校があるけど、はいれません。

学生たちと話すの時間は少し短くて、もと話してくれてよかったと思いますが、たくさん面白いなことを聞いて、朝鮮学校のことについてもと習うことになって、そこに行ってよかったです。

朝鮮大学校訪問の感想文

★朝鮮大学・朝鮮人民族の状況

2015年5月20日に朝鮮大学校を訪問し、学内と大学の歴史や朝鮮人の民族教育などを案内していただいた。朝鮮大学校は、在日本朝鮮人総聯合会が結成され、1956年に4月10日に創立され、大学の経済は自立しながら、祖国の支援と協力を受け、大学の整理・設備などを利用している。現在、様々な日本の大学と文化交流とかスポーツなどを活躍しているようである。大学内には朝鮮人民族の歴史を守り、文化を紹介するために、博物館が設置されてオンリーワンの大学かもしれないと私は思う。

第二次世界大戦後に、一部分の朝鮮人民族が帰国せず、日本に定住している。様々な問題が起きても自分自身で民族の文化･習慣･教育等を守って行くのは素晴らしかったと思う。問題は、在日の朝鮮人が韓国の政府に認められず、多くの朝鮮人が国籍あるいはパスポートを持っていなくて、海外旅行には大変厳しいそうだ。特にふるさとへ帰ってはいけないことである。でも海外へ留学するために国籍を変える朝鮮人がいるようである。

★朝鮮大学生との交流：大学内の生活

グループに別れ、私のグループは朝鮮大学の学生5名（男：3名・女：2名）と東京学芸大学の学生6名（男：2名・女：4名）である。自己紹介が終わってから、質問事項をもとにどんどん質問したり答えたりした。交流後の結果は以下のようである。

日本の大学と同じように学生のサークルを活躍し、情報交換をしたりしている。ほとんどの大学生が朝鮮大学内の寮で生活している。東京に住んでいる学生でも地方から来た学生でも必ず寮に住むことになっている。朝鮮大学の寮は門限もあるし、大変厳しいという話があると言っても、朝鮮大学の学生は、それは問題ではないと言った。なぜなら寮に住んでいると、簡単に友達もできるし、一緒に勉強できし、家族と離れて一人暮らしのような

良い体験をしていると思われているからである。
日本に生まれて子供の時から日本語を使っていた朝鮮人の大学生は、現在でも日常会話は普段日本語を使っている。大学の教科書はもちろん朝鮮語で書かれているが、友達としゃべる時や参考文献や資料等を読む時、普通に日本語を使うそうだ。また生活の環境（テレビ・携帯電話等）で耳にするのはほとんど日本語である。生活のためにほとんど日本語を使ってしまうといっても、朝鮮人民族の言語を守るために、できるかぎり自分の意識で朝鮮語を使うようにしているそうだ。
私は来日してから様々な外国人留学生と交流しているが、今回は朝鮮人の大学生と話し合いができたのは本当に素晴らしかったと思う。私たちは日本に滞在している外国人同士であるが、違う環境で教われると感じるようになった。

私は今回朝鮮大学校を訪問していないのですが、訪問した人の感想を聞くことでもとても貴重な情報を得ることができました。
まず、みんな口をそろえて言っていたのが、多くの生徒が今まで日本でマイノリティであるということを理由に嫌がらせを受けたことがあるということでした。このような差別は日本に外国人がいるのが当たり前になった今日でもなくなりません。とても悲しいことです。
また使用している言語に関しては、日本語で普通に会話し、学校で朝鮮語を第 2 言語として学習しているそうです。こうしてみると、両親の国籍が違うだけで私たち日本人となんら変わりないように思えます。また、話をきいたときに最も驚かされたのは、朝鮮人の多くが選挙権を与えられていないことをプラスにとらえているという点でした。理由は、彼らはマイノリティ同士のつながりをとても大事にしていて、選挙によって内部に対立が起きるのを危惧しているためというなんとも理にかなったものでした。彼らは、マイノリティであることに誇りすら感じているように見てとれたと言っていた人もいました。今回の話を聞いてこれからの授業とブラジル人学校訪問がますます楽しみになりました。

朝鮮大学校感想レポート

私は授業で朝鮮大学校や在日朝鮮人について触れるまであまりそのことには関心がなく、北朝鮮に関しては良いイメージを全く持っていませんでした。しかし今回、朝鮮大学校に訪問し、今まで北朝鮮に抱いていたイメージとは異なった印象を受けました。
　戦前、戦時中の日本では朝鮮に居住していた多くの朝鮮人が日本に移り住んできました。日本に強制的に連れてこられた人も多く、直に祖国へ帰るということを強く願い、日本の抑圧に耐えながらも同胞会や学校などをつくり、自らの民族性を保持していきました。その流れでできたのが今回訪問した朝鮮大学校です。朝鮮大学では自分たちの民族について深く学んでいました。交流する中である北朝鮮の学生が意外なことを話してくれました。その学生が国へ帰った時北朝鮮の人に「日本で自分たちの同胞として頑張ってくれてありがとう」と、とても暖かく迎え入れられたそうです。そして遊園地では日本で頑張ってくれてありがとうということで、並びもせず顔パスで楽しめたと話していました。また「北朝鮮ではバラエティー番組はありますか」と聞いたところ、「そんなものなくてもみんなが親密に話しかけてくれるため、テレビを見なくてもたのしくおしゃべりできるので十分面白い」と言っていました。今まで私たちは北朝鮮を軍事的、政治的な目でしか見ていな

っかったので、庶民の生活はとても暖かいものがあると知れてよかったです。
私たちがよくテレビで見るニュースのアナウンサーがいますが、どうしてあんな怖い口調で話しているのかと聞いたところ、あの口調は方言だそうです。そこの方言は少し強く発音するという特徴を持ち、必ずしもすべてのアナウンサーがあのようには話していないそうです。
　私は在日朝鮮人が受けている差別に関心を持ったため、そのことについても尋ねてみました。すると多くの学生が差別を受けたと言いました。ある学生は小学生のころ、隣にあった日本の小学校の生徒に石を投げられたり、からかわれたりしたそうです。そういった差別を通じて学生たちが口をそろえて言うのは「自分がどうしてこんなことをされるのか理由がわからない」ということでした。理由もわからずに嫌がらせを受けるのはとてもつらいことだと思いました。今回の経験を通じて私が感じたことは、国のイメージをつくってしまう政府の主張やニュースに簡単に流されてはいけないということです。朝鮮の方々と話してみて、一般の人は心温かく、お互い助け合って暮らしているということがわかりました。
ただニュースやネットだけを見て何もまだわからない子供までが差別の対象にされるのはおかしいことだと思います。重要なのは実際の体験なしに偏った考えを持ってはいけないということです。今回のように異文化間の交流により見えてくる私たちが持っていたイメージとは違うものがたくさんあります。話すことで相手のことが理解できるので、理由もなく相手のことを批判するということがなくなってくるのではないかと思います。また、今回のようにより仲良くもなれると思います。

朝鮮大学校の訪問（2015.05.20）

前週の水曜日に岡先生の「多文化異修科目Ａ」という授業の修学旅行で朝鮮大学校を訪問しました。なぜなら、朝鮮のことや在日朝鮮人の生活の問題や在日朝鮮人は日本についてどう思うかなどについて知りたいからです。

朝鮮大学校に到着したあとで、朝鮮大学校の先生が日本にある朝鮮の学校歴史についてのスピーチをしてくださった。そのあと、先生に朝鮮大学校とここにある朝鮮博物館を案内していただきました。博物館にいろいろな歴史的な面白い朝鮮からの出品物があり、たとえば朝鮮に存在している動植物、ミニチュア歴史的な船と町がありました。そこにも先生から歴史などについての説明をいただきました。

しかし、私にとって一番面白いのはその後にあったことです。朝鮮大学校の学生が私達とたくさんのグループを作って、交流しました。私のグループには１０人がいました。いろいろな国からの人だったから、たくさんの意見や経験があって、とても面白かったです。たとえば、「どんな言語で考えている？」、「日本についてどう思う？」などを在日朝鮮人の学生に聞きました。そのうえ、在日朝鮮人の学生は自分の生活での問題について話しました。在日朝鮮人だったら、日本人からの差別のせいでときどき仕事や自宅を見つけることが本当に難しそうです。で、日本語は母語なのに、他の人が「日本語は上手ですよね！」と言います 。日本で永住しているけれど選挙にも参加できません。

トリア大学の先生のおかげで毎週一回にその大学校に行って、ドイツ語を教えているから

もう少し知っていましたけど、前週の修学旅行のおかげで色々な新しいことを知って面白い経験をしていただきました。特に、在日朝鮮人の学生と交流は一番面白かったと思います。次のブラジル人学校の修学旅行を楽しみにしています。

朝鮮大学校に関して感想文書

五月二十日に朝鮮大学校へ修学旅行が行われた。遠足の目的は韓日関係の知識を深めたためだった。学校の敷地を見学した後に、大学生は朝鮮大学校に関して講義を聞くために歓迎された。講義では、朝鮮の現代史を含みた。大学生は学校歴史や韓国と北朝鮮の関係について話を聞た。学校が 1950 年代に北朝鮮でサポートされていた。昔々、それは北朝鮮の学生に利用可能な唯一の大学だった。現在、多くの日本人、北朝鮮人と韓国人は一緒に勉強している。北朝鮮子孫のための大学校だけではない。たとえそうでも、空気に少し緊張の感じたと思う。

学校歴史講座後に、東京学芸大学生は図書館と歴史博物館や自然科学博物館にガイド･ツアーを受信された。博物館は韓国の遺存と動植物を表示した。ギャラリーに、典型的な韓国の野生生物を示されて、絶滅危惧種を提示された。北朝鮮からぬいぐるみとホルムアルデヒドの動物を見ることが出来た。大学生の印象は魅了さ印象から少し邪魔さのまで範囲あった。

最後に、東京学芸大学生は朝鮮大学生と面接をした。皆はグループに分けられて、朝鮮大学生アイデンティティ、差別や経験の問題について疑問を呈しました。実は、たいてい学生は朝鮮学校だけ出席して、強力な朝鮮や韓国アイデンティティを持っている。すべての学生は、自分の人生で少なくとも一度差別を経験した。そして、学生によると仕事を見つけることは困難だって、日本人雇用は、彼らが外国人だと思っている。多少の朝鮮大学生の話はとても感動的だった。彼らは、自分のアイデンティティを守っているために

色々なことをしている。ですけれども、皆もいい日本市民、日本を気につける。

朝鮮大学校

私は自転車で現地へ行ったが、想像以上に身近な場所に朝鮮大学校が あることに驚いた。大学に着くと流暢な日本語で大学校の先生が迎えて くださり、見た目が同じアジア人であることもあって国籍の差を全く感 じなかった。大学の雰囲気は日本とは少し異なりコンクリートが多く緑 が少ない印象を受けた。　最初の説明会のお話で、「未だに日本の政府から奪われたものは変換 されていない」という言い回しなどから、朝鮮人の人達が日本が対戦中 に犯したことに対して未だに良い印象を持っていない事が感じ取れた。拉致問題などの交渉をうまく進めていくためにも、日本は一度国として 謝罪の意を表することが必要だと感じた。また朝鮮大学校の先生に個別 に質問した際には、朝鮮人が北朝鮮と呼ばれる時に国として認められて いないように感じてしまうということを知った。先生によると正式名称 はあくまでも「朝鮮民主主義人民共和国」であり、長くて言いにくいた め省略するにしても「北朝鮮」では愛称で呼ばれているように感じるの だという。「朝鮮」と呼ぶことは対等に国として外交やコミュニケーショ ンをとりたいという意志の表明にもなると思う。こうしたことは、実際 に朝鮮人から話を聞かないとわからない貴重な情報ことだと感じた。こ れからは「朝鮮人」という表現を使っていこうと思う。続く交流会では、主に朝鮮大学校での生活について話をした。ほとん どの学生が在日朝鮮人３世または４世で、家庭では日本語、学校では朝 鮮語を話す bilingual なのだという。全寮制の生活や各専門分野の授業に ついて生き生きと語ってくれ、大学内での生活については不自由なこと はなさそうだった。国際政治や差別の経験など heavy な話題についても 触れたかったが残念ながら時間がきてしまった。後に友人に聞いた話か ら、在日外国人が選挙権を持っていない事に関して不満を持っていない 事がわかり意外に思った。最後には朝鮮大学校の女学生のうちのひとり と連絡先を交換し、次回学芸大学で会う約束をするなど交流を深めるこ とができてよかった。この出会いを大切にこれからも交流を続けていき たいと思う。

異文化理解とコミュニケーションの朝鮮大学校のスタディーツアー

２０１５年５月２０日に朝鮮大学校に行きました。最初、先生は大学の歴史について話しました。日本語で少し速すぎ話して、分かり難いでした。そのスピーチの後、ツアーがありました。朝鮮の歴史からたくさん物を見えました。例えば古い絵や細か地図や石や動物を見ました。面白かったです。

後で朝鮮大学校の学生とグループをしました。色々な質問しました。例えばまず、名前に

ついて。朝鮮人の名前がありますから、新しい人に会う時、よくこの人はビックリです。

日本人じゃないですかと日本語が上手ですと言います。それは少し大変なです。

そして、家で日本語を話します。でも、学校で朝鮮語を話させます。朝鮮のアイデンティティーをして、言葉は必要です。だから、朝鮮語は一番言葉です。でも、日本に住んでいますから、日本語と英語も勉強します。

最初、教科書について。その教科書は日本の教科書と少し違いです。たとえば歴史のチャプターです。

先日、朝鮮大学校を訪問するまで、私は、メディアに自分がかなり影響を受けていた。朝鮮を曖昧な感情だが、怖いものだととらえていた。そして、朝鮮人のことも。国に対する印象をその国の人の印象としてしまう。これは、誤っているとわかりながらも、私は、完全に朝鮮人に対して、素直な感情、同じヒトと思いきることができないでいた。しかし、今回の訪問で、朝鮮大学校の学生たちの日々の生活を目の当たりにして、私はなんて偏った見方をしていたのだろうかと、自分が空しくなった。彼らは、むしろ今の日本の若者たちよりも温かい心をもっていると感じた。言語の違いからくる家庭内での意思疎通の難しさ、在日朝鮮人への偏見からくるいじめなど、彼らはいろんな体験をしていたのである。彼らは、何度も「日本人と一緒」そう繰り返し訴えていた。

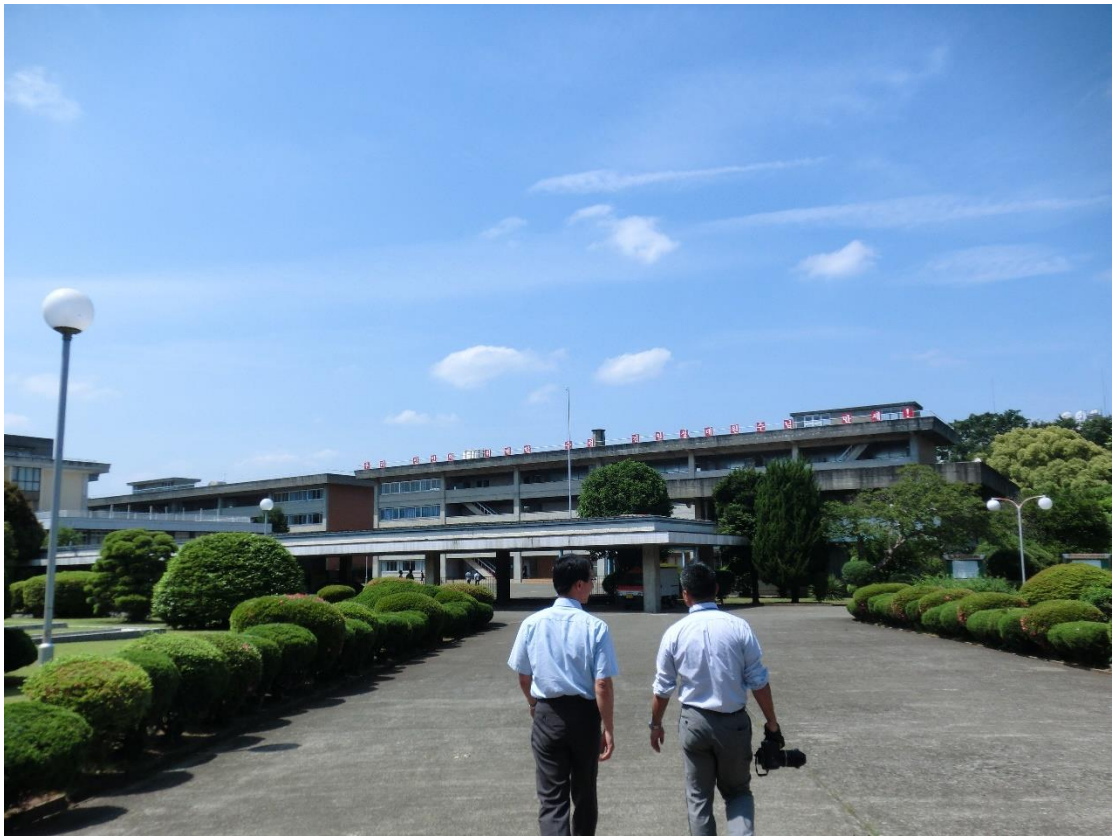
彼らと深く対話していくうちに、面白い事実もわかった。朝鮮語よりも日本語のほうが話しやすいということだ。休み時間など、ついつい日本語を使ってしまうのをみんなで協力して直そうと、朝鮮語を推進する、運動もあるそうだ。

また、彼らは、民族教育がしっかり行われているせいか、自国の歴史について、ものすごく詳細まで、理解していた。なぜそんなに、歴史にこだわるのか聞くと、自国の歴史を知ることは、自分を知ることにつながるからだそうだ。自分がどこからきたのか、自分とは、何者なのか。アイデンティティを大切にしていた。

在日朝鮮人の間では、男子は、サッカー、女子は、舞踊を小学生のころに必ず習っていて、そのため、朝鮮大学校でも、サッカーと舞踊は、レベルの高い部活となっているそうだ。実際、朝鮮舞踊を見ることができた。曲の始まりから、終わりまで、笑顔で踊り、太鼓も使用していて、レベルの高さがうかがえた。

朝鮮大学校の敷地内には、博物館もあって朝鮮半島に生息する動植物は、もちろん、歴史的な民族衣装や墓、絵画まで楽しめた。北朝鮮の動植物は、まだまだ発見されてないものが、多いらしく、珍しいものに巡り合えるのもこの博物館の特徴だと思った。

彼らは、全寮制であり、切磋琢磨している空気をすごく感じられた。

女子たちは、チマチョゴリを校舎内では、常に着用していて、地味な色、デザインだが、チョゴリの裏に各々好きな刺繍を入れ、おしゃれを楽しんでいる文化もあった。彼女たちは、校舎内では、チョゴリを着ているが、外に出るとき、特に電車に乗るときは、チョゴリを着用しないそうだ。理由は、チョゴリを着ているだけで、在日朝鮮人に対する偏見を

もった人たちから、蹴られたりなど、危険があるからだ。
　今回の訪問で、異文化を理解するには、実際に異文化交流することが、どんなに大切なのかがわかった。また、これから多文化社会となる日本人に必要なのは、国のイメージをその国の国民に安易に当てはめてはいけないということだ。これから、異文化体験ができる機会があれば、進んで参加しようとも思った。